

## ミュージック・リベラルアーツ専攻における学びについて

ミュージック・リベラルアーツ専攻では、日本の音楽大学初となる「音楽・英語・教養」融合型カリキュラムを組んでいます。

音楽大学における「グローバル教養」「音楽文化」等の学科や専攻の多くは、音楽の実技より学科を中心としていますが、東京音大のミュージック・リベラルアーツ専攻は、専門的な実技教育を柱としながら、英語教育と教養教育を強化したところに特色があり、入学後の実技教育は既存の専攻とほぼ同様に行われます。

入試段階ではプロフェッショナルを目指す学生から、教養の核として音楽を学ぶ学生まで広く受け入れる方針です。学生はそれぞれの能力に応じて音楽を専門的に学び、その仕上げとして卒業演奏を行います。それと平行して、1年次は一連の「英語スキル科目」によって実践的な英語力を確実に修得し、2年次からはその英語を使った「リベラルアーツ(教養)科目」を学び、卒業論文(英文)を仕上げます。

- 全学年を通して学ぶ音楽関係の科目は、個人レッスンによる専門実技(声楽、器楽、作曲、指揮)とともに、アンサンブル(室内楽、伴奏、オーケストラ、ブラスバンド、重唱、合唱等)を重視しています。
- 1年次で学ぶ英語スキル科目のなかでは、コミュニケーション力養成のために早稲田大学のレベル別授業「Tutorial English」(英語ネイティブ教員1人対学生4人)を導入しています。また、Writing、Debate、Presentation等の授業には提携校である上智大学の協力を得ています。
- 2年次からのリベラルアーツ科目は、英語によるActive Learning方式の授業です。人文科学(芸術と音楽)、社会科学、自然科学の3つの分野の科目がバランス良く配備され、知識を獲得するだけでなく、自ら問題を発見する力、解決を提案する力を養います。

このような複合的なカリキュラムのもとで、とくに3年次以降は科目選択の範囲が広がり、プロフェッショナル音楽家の道を邁進しようとする者から、音楽を教養の核として実業の世界に飛び込もうとする者まで、学生はそれぞれ希望する進路に適した時間割を組むことができます。

ミュージック・リベラルアーツ専攻は音楽という”本物”を軸として、確実な英語力と良質な教養を身につけ、希望するどの分野に進んでも有意義な活動が出来る人間を育成します。